

# らじみサラダボール子育て情報

「乳幼児の発達を知って楽しい子育てを」

令和元年10月2日号

板橋富士見幼稚園



乳幼児期の成長は、成人の人の成長の速度と比べると著しく、身長を見ても、1年に10cm以上も伸びその成長を遂げていく姿を確認することが出来ます。生まれた時の体重はおよそ3000グラム身長は50センチと言われます。その後3年が経過するとなんと体重は5倍、身長は2倍近くになります。つまり、3年間にこれだけの急成長が見られます。もしこれが大人の時期だったら、気持ちが悪い現象ですね。

ところで、外見だけではなく、見えない脳や筋肉、骨、神経、内臓、ホルモンなどの発達にも著しい変化が起こっているのです。まず筋肉は、大きな筋肉が先に出来てその周りに繊細な動きをコントロールする小さな筋肉が作られていきます。骨も同じで、大きな各部分の骨が作られ、その骨と骨をつなぐ小さな骨が作られていきます。



神経系の発達は筋肉の発達と密接に関係していて、たとえば目で見た物を素早く正確に、手でつかみ取るといったことは、実は目から入った視覚を脳が判断し、神経に「手でそのものをすぐに取りなさい」と指令します。しかし、筋肉の素早い連携が発達上出来ない為に、うまくつかむことが出来なかつたりします。また脳の働きも、記憶や技術的な経験を大人よりかなりのスピードで学習していきます。言葉などは3歳で2000語4歳で3000語5歳で4000語近く学習していくとされています。つまり1年に1000語近く覚えていくことになるのです。すごい記憶の力ですね。

だからといって、やたら教えても覚えるものではありません。生活の中で繰り返す体験「遊び」がこのような知的な側面を育てているのです。運動的な遊びと共に、考えて時間をかけて遊ぶ遊びを十分に取り入れることが大切です。そのほか、乳児などは、ミルクを与えた後に、げっぷを出してから寝かせますね。実は、胃袋の発達と密接に関係していて、みなさんが絵で良く見る胃とはちょっと形が違い、風船に水を入れたような縦型で、かつ入り口が絞られていません。ですから、横にするとこぼれ口から出てきてしまいます。そのため、げっぷをさせて、胃酸でヨーグルトのように固めてしまうのです。また、泣くということも、感情の発達から大変重要な働きがあります。泣けることは、自分の欲求を相手に伝えられるという証拠ですから、何かの時に大声で泣ければ、その子は、順調な発達を遂げている証拠とも言えるのです。

ともかく乳幼児期は、色々大人と違ったことがたくさんあります。一つ一つ理解していくことが子育てが楽しくなる秘訣かもしれませんね。お母さん。